

法政大学第7回FDシンポジウム

「Facultyの活性化としてのFDを問う」に参加して

2009年10月10日(土)

法政大学イノベーション・マネジメント研究センター 魚住 弘子

勤続20年目の本年、先輩職員の方に誘われこのシンポジウムに参加したが、「大学とは何か」という大学教育の特質と課題に直面した。好機に恵まれたことに感謝している。

基調講演では『FD・SDを「わがこと」とするために—大学政策の変転とサバイバルのもとで考える—』をテーマとし、FDが求められている社会的・倫理的背景、中央教育審議会(中教審)の政策、FDの本質、SDと今後の課題をについて、的確に講じられた。

今までは、法政大学におけるFDを、「授業改善アンケート」を主軸とした5つのプロジェクトによる全学的な「授業」改善の取組と狭義に捉えていた。講演によって、中教審ではFDを「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」と定義しつつ、英米のような広義のFD(「単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すもの」)の解釈も紹介していることを知り、今回のテーマ設定の意義を学んだ。特に、『「〇〇大学ならでは」のFD/SDをどう創造するか』、『「義務化」とは何か—誰の何に対する「義務」なのか』、『すでに行っているFDの「発見」こそ大切』との提言は、重要な視点であった。組織的なFD活動を行うには、個々の大学の独自性を活かすこと、大学の運営主体が支援することの必要性が説明され、大学の構成員である学生・教員(FD)・職員(SD)の関係性とFD・SDの方向性が理解できた。また、目前の対策として、まず、過去のFDや自己点検・評価活動を再確認することが必要であると強調された。改革時の選択には大学の理念が現れるものであり、背景にある社会的問題・課題を丹念に分析することで「発見」につながるという。PDCAサイクルのCAに当たる取組といえる。

パネルディスカッションでは、関西大学、弘前大学、立命館大学、法政大学のFDの紹介と討論・質疑応答に、改めて考えさせられた。印象深い取組は、「学生力の支援による教育改善」事例としての「授業支援チューデントアシスタント(SA)」(関西大

学), FD先進国の比較研究に基づく「優れたFD/ED¹を推進する必要条件」(ディレクター・予算・FD研修を奨励する管理者の確保)とその実践例(弘前大学),「大学リテラシー」としての新任教員対象の「実践的FDプログラム」(立命館大学)であった。基調講演から各大学の取組と指定討論者からの問題提起に一連のつながりが見えた。

ここで、法政大学の目指すFDとは何か。法政大学のFDの今後進むべき方向性を明確にし、ビジョンと目的を再考する「第二ステージ」を迎えたといえる。その中で、法政大学職員の一員として、現在の大学付置研究所の事務担当として、いま私に何ができるのか。学生・教員のニーズと法政大学のシーズとは何か。建学の精神「自由と進歩」に基づく「自立型人材」の育成のために必要なカリキュラムやサポートは何か。今回直面した、人材を育成する場である大学教育の特質と課題を、自分なりに考え続けよう。すぐに正解を出して短期的な評価を受けることを目的とせず、まさに教育原理といえる『「競争」だけでなく「協同・連携」』によって、教員や同僚と情報交換の機会を増やしていこう。法政大学の学生は、その取組姿勢に共感しさまざまな場面で応えてくれる²と期待している。

大学が大学たるゆえん、そして法政大学の独自性(強みと弱み)を考え、知り、共有し、そして継承していくためにも、このようなシンポジウムを「正規の研修」として位置づけるのが、FD・SDの再スタートとなるのではないだろうか。多くの教職員が関心を持ちながらも参加するまでには至らない現状を、どうカイゼンしていくのか。そして、大学の運営主体は、FDの本質を見極め、構成員の個々のポテンシャルやマイナス要因をも受け止めて対峙する。そのうえで共通の価値観やビジョンを見出し、組織的にバックアップする試みこそが大きな一歩を生み出すのではないだろうか。

最後に、土持ゲーリー法一先生による話題提供では、FDを取り巻く世界の状況は、FDという教職員に限定されたものでなく、大学全体の教育環境改善の向上を目指すエデュケーション・ディベロプメント(ED)が主流となっているという。この点で、日本の大学は大幅に遅れているという認識だったが、法政大学のFDの将来性を見さえ、さらに法政大学ならではの、FD推進が図られていくことが楽しみでもある。

以上

¹ エデュケーション・ディベロプメント

² 洞口治夫編著(2008)『ファカルティ・ディベロプメント』学部ゼミナール編,白桃書房(法政大学図書館所蔵:市図開架 1F 372/HO,イノベーション・マネジメント研究センター所蔵:IM 一般図書 1S00032107)